情熱とは、あなた自身の内なる炎。
一途にトレーニングに励むときも、
戦いに敗けても挫けず
何度も果敢に挑戦し続けるときも、
熱く、まばゆく燃え続ける。
熾烈な戦いのなかで、
すべての敵を焼き尽くしてしまうまで。

■ 日本リーグ唯一の公式試合球
■ 全日本実業団連盟主催大会唯一の公式試合球

32H312Y ヌエバ ¥6,825(本体価格¥6,500)
国際公認球・検定球・縫い・人工皮革・3号球
カラー（黄×黒）

32H212Y ヌエバ ¥6,615(本体価格¥6,300)
国際公認球・検定球・縫い・人工皮革・2号球
カラー（黄×黒）
(標記の価格はメーカー希望小売価格)

株式会社モルテン　東京本社　〒130-0003 東京都墨田区横川五丁目5-7　大阪・名古屋・福岡・広島四国・仙台・札幌・モルテンUSA・モルテンヨーロッパ・モルテンタイランド・モルテンメキシコ　www.molten.co.jp

第31回 日本ハンドボールリーグ 開幕にあたり

日本ハンドボールリーグ機構 GM　田中　茂

第31回日本ハンドボールリーグが、いよいよ9月2日から全国各地で開催されます。

昨年度、第30回記念大会では、全国各地で熱戦が展開され観客動員も過去の実績を大きく上回る観客（サポーター）の皆様が試合会場に足を運んで頂きました。また日本リーグチャンピオンを決定するプレーオフでは、東京駒沢体育館にて超満員の3500名の観客を集め、日本一決定戦に相応しい大会となりました。各試合とも熱のこもった選手達のプレーに駒沢体育館が今までにないエキサイティングな、またハンドボールの面白さを多くの観客に伝えた大会でもありました。これも試合会場に足を運んで頂きました観客（サポーター）の皆様、リーグ運営を支援していただいておりますスポンサー各社、リーグ開催にご尽力いただいております開催地の皆様方のお陰と心より感謝申し上げます。

近年の日本ハンドボールリーグは、各開催地、各チーム、運営委員会の協力により年々新しい企画による活性化が図られ、多くの観客（サポーター）を動員できるようになりました。

日本リーグの未来図をしっかりと描き、その具体化がやがて地域に密着したハンドボールの普及と、更なる競技力向上へと結びつくようにと弛まぬ努力を続けております。更なる発展を期するためにも、普及対策や、経済状況に左右されない財源確保（リーグ運営・チーム運営）の確立などいくつかの課題をクリアしていかなければなりません。これらの課題をクリアしていくために、リーグ運営の事業化等、様々なアイデアを実行に移し、今までのハンドボール界にある固定概念や既成概念から脱皮して、現代社会の環境に受け入れられる意識改革をハンドボール界全体で行なっていかなければなりません。将来のハンドボール界を支えていく若い人材確保のためにも、また競技力向上のためにも、我々自身が意識を変えて益々の発展を目指したいと考えております。

過去第4回大会から男子は1・2部制にて開催していましたが、第31回大会から新たに1部制となり10チームによる2回戦総当り、女子は6チームによります3回戦総当りのレギュラーシーズンを戦う事となりました。

日本のスポーツの多くは企業に支えられた実業団チームを中心に発展し、バブルの崩壊とともに多くの実業団チームの撤退が続いてまいりました。ハンドボールリーグも社会の流れと同じくチーム数を減らしてまいりましたが、第31回大会より三重花菖蒲ハンドボールクラブが女子のクラブチームとして日本リーグに参戦いたします。三重花菖蒲ハンドボールクラブの参戦はリーグ理念にもあります、地域に根ざした、また普及と言った観点からも新たな第1歩であると思います。

日本リーグ機構としましても更なるリーグ発展のために、開催地の責任者にお集まりいただき開催地責任者会議を開催いたしました。リーグ運営を中心に話し合われました会議では、主に観客動員について今までにない開催地の運営方法などをご披露いただき、観客動員に対しての意識が更に高まり充実した会議の結果を各地で実践していただければと思います。

31回を迎えます日本リーグもチーム・観客（サポーター）・運営が一体となり更なるリーグ発展に向けて協力体制を築き、競技レベルを高め、来年に行なわれます「北京オリンピック」予選にて出場権を獲得できるよう全力を上げて協力して行きたいと思っております。

日本最高峰の日本リーグ、多くの皆様に会場まで足を運んで頂き、熱戦を展開いたします選手に声援を送って頂きたいと思います。

最後になりましたが、31回大会を迎えるにあたり、ハンドボール関係者、リーグ関係者が一体となり大会を運営できますよう努力していく次第です。ハンドボールを愛する多くの方々のご来場をお待ち申し上げます。

世界学生選手権大会

World University Women(6th)/Men's(18th) Handball Championship 2006

男子はロシア、女子はポーランドが優勝
日本は後一歩及ばず、男子５位、女子４位

日本選手団 団長　**福地 賢介**

第６回女子世界学生選手権及び第18回男子世界学生選手権大会は、2006年７月１日より７月９日まで、バルト海沿岸の1000年の歴史を数える港湾都市、ポーランドで１～２を誇る美しい町と言われるグダンスク（英語読みグダニスク）に於いて、男子13ケ国・女子７ケ国が参加し大会史上初めて男女同時開催された。

競技は、ポーランド国立AWiS大学体育スポーツアカデミー内に所在するメインホール及びサブアリーナにて、男子は、予選リーグ（ＡＢ両組）・順位決定戦、女子は一次リーグ（７ケ国の総当り）・順位決定戦の競技方式で行われた。男子はロシアが、前回大会（ロシア）に続き優勝、女子は開催地のポーランドが優勝、日本は男女共に悲願のメダルまで、後一歩のところで敗れ、男子５位、女子４位であった。

ユニバシアード規定（１月１日現在で17才以上28才未満の大学在学中、もしくは大会前年に大学を卒業した者）により、社会人選手の参加が認められており、日本も男女共社会人と学生の混成メンバーで編成された。

男子は、前回のロシア大会を経験した選手が８名に、Ｕ－21、Ｕ－23で国際試合を経験している選手で編成、全日本・JHLチーム・Ｕ－21との合同合宿（福井）での成果などからメダルの期待が持たれていた。フランスでの強化合宿（６月22日～28日）を経て本大会に臨んだ。

予選リーグのハンガリー、クロアチア、ポーランド戦を接戦ながら、幸先よく３連勝。

しかし、チェコ戦では多彩に攻めるチェコに先制されて、これから追い上げという20分過ぎ、東長濱兄の負傷退場からリズムを崩し７人攻撃などを仕掛けたが敗れた。グルジア戦は、勝つか引分けで優勝決定戦へ、負ければ５位決定戦という大事な試合であったが、東長濱兄を欠く（７ｍは打つ）試合となった。前半17分までは互角の展開であったが、17分過ぎ、急にDFの乱れが出て連続失点、そのまま前半を９点差のビハインドで終了。後半15分過ぎから本来のリズムを取り戻し追い上げに入ったが、グルジアの勝つ為なら何でもと言う様なラフ（退場５名・レッド３名）なDFに苦しみながら26分、３点差まで追い上げたものの、追い切れず５位決定戦行きとなった。５位決定戦対ラトビア戦は、前日の敗戦を引きずる事なく、出だしから順調に得点を伸ばし勝利した。

フルに力を発揮し、コンスタントにキレの良いシュートを決めていた中畠選手が、５位ながら優秀選手に選ばれた。

女子は、全日本との国内合宿（東女体大）を経てハンガリーで強化合宿（６月22日～28日）を行い成果を上げての大会入りとなった。

セルビア・他が査証の関係で入国が遅れ、日程が変更となり、２日から９日までの８日間で７試合というタイトでハードな日程となった。

男子に比較し、対外国戦の経験の少なさが懸念されたが、170cm台の選手がOFで１名、DFで２名という小柄な日本は、180cm後半の選手を含め大柄な欧州勢にスピードあるOFと積極的な攻めのDFで対抗、３勝３敗で３位決定戦進出の権利を獲得し、リトアニアと最終日にメダルをかけての対戦となった。

前半途中で３点リードとしたが、前半の終わりに吉田の負傷退場や、連戦の疲労もありDF面で押し込まれが目立ち、逆転される。小柄ながらルーズボール・リバンドに身を挺する野路や宮本の気迫あるプレーで追い上げたが届かず、そのまま押しきられ念願のメダルに届かなかった。４位ながら植垣選手が大会オールスターに選抜された。

FISU関係者は共に「次大会では充分にメダルを狙えるところに来ている。欲を言えば、チーム全体のフィジカル面の強化あれば」としていた。

積極的なDFと７人攻撃も含めた多彩なOFを構築し、上位の成績を残した男子スタッフ（山田永子氏を含む）、フルエントリーから１名を欠きながら、卓越した指導力で短期間ながらチームをまとめ、戦況に対応した采配で欧州勢に対抗した女子スタッフ、それをサポートしたメディカル陣の活躍も目立ち、良く貢献していた。

選手団名簿

男子

スタッフ	氏　名	所属先
団長	福地　賢介	(財) 日本ハンドボール協会
ヘッドコーチ	佐藤　壮一郎	(財) 日本ハンドボール協会
情報科学	安達　隆博	(財) 日本ハンドボール協会
ドクター	沖本　信和	浜脇整形外科病院
トレーナー	永井　正之	ながい接骨院
総務	山田　永子	(財) 日本ハンドボール協会

		氏　名	所属先	出身校
1	GK	志水　孝行	湧永製薬	大阪体育大
12		東　　直明	日本体育大	千原台高
16		甲斐　昭人	日本体育大	小林工業高
2	CP	東長濱　秀作	湧永製薬	日本体育大
3		門山　哲也	トヨタ車体	日本大
4		富田　恭介	大同特殊鋼	中部大
5		武田　享	大同特殊鋼	国士舘大
6		地引　貴志	大同特殊鋼	日本体育大
7		中畠　嘉之	トヨタ紡織九州	福岡大
8		武藤　剛	湧永製薬	日本体育大
9		岸川　英誉	早稲田大	國學院栃木高
10		服部　広幸	中部大	大垣工業高
11		海道　衛秀	筑波大	氷見高
13		東長濱　秀希	日本体育大	興南高
14		棚原　良	日本体育大	興南高
15		前里　卓実	早稲田大	興南高

女子

スタッフ	氏　名	所属先
副団長	樫塚　正一	(財) 日本ハンドボール協会
ヘッドコーチ	黄　慶泳	(財) 日本ハンドボール協会
コーチ	齊藤　慎太郎	(財) 日本ハンドボール協会
トレーナー	高野内　俊也	日本予防医学協会

		氏　名	所属先	出身校
1	GK	毛利　久美	福岡教育大	明誠学院高
2		南　裕子	武庫川女子大	洛北高
3	CP	野路　良子	北國銀行	大阪教育大
4		亀山　英里	ソニーセミコンダクタ九州	洛北高
5		市村　早紀	武庫川女子大	夙川学院高
6		入間川　浩子	東京女子体育大	聖和学園高
7		五月女　美代	東京女子体育大	埼玉栄高
8		植垣　暁恵	大阪教育大	宣真高
9		吉田　薫	武庫川女子大	夙川学院高
10		宮本　佳恵	武庫川女子大	宣真高
11		仲宗根　彩	大阪体育大	陽明高
12		荒木　佳子	武庫川女子大	暁高
13		伊藤　亜衣美	三重バイオレットアイリス	武庫川女子大

最終結果

■男子
優勝：ロシア
2位：グルジア
3位：ベラルーシ
4位：チェコ
5位：日本
6位：ラトビア
7位：ハンガリー
8位：トルコ
9位：ポーランド
10位：セルビア・モンテネグロ
11位：ウクライナ
12位：クロアチア
13位：中国

■女子
優勝：ポーランド
2位：ハンガリー
3位：リトアニア
4位：日本
5位：チェコ
6位：チャイニーズタイペイ
7位：セルビア・モンテネグロ

男女同時開催で運営面もどのようになるかと思っていたが、過去に各種大会運営を手掛けているという経験があり、円滑な大会運営であった。只、テロ、その他の問題から警備が厳しく、24時間ガードマンが配備されていた。また、警備の関係とかで一般観戦者を入場させず大会関係者（選手家族含む）のみで、この点では、やや物足りさを感じた。

尚、次回の2008年は、同時期にイタリア（ベネチア）での開催が決定している。

今回も多くの関係各位の協力得て、強化合宿から本大会への計画を遂行する事が出来、誌面をお借り致し、心からお礼を申し上げます。

選手の声

世界学生を終えて

富田 恭介

今回の大会前に、メダル獲得に向けて、国内では大同合宿と福井合宿で日本リーグ勢と多くの試合をこなし、国外では大会直前にフランスで地元のクラブチームと試合をするなど、自分たちよりもフィジカルやサイズで上回る相手にどう戦って勝つかを課題にチーム一丸となって取り組みました。その成果もあって、チームとして良い準備ができて大会に臨むことが出来ました。

そして、本大会では開幕からヨーロッパ勢に３連勝して、あと２試合のうち１勝すれば予選を１位で通過できるところまでいきました。しかし、その大事な２試合を勝つことが出来ず､結局５位という結果に終わってしまいました。今回は、実業団チームから８人の選手が加わり、また、前回大会を経験している選手も多くいて、本当にメダルが狙えるチームだったと思います。しかし、結果が出せなくて本当に悔しいです。

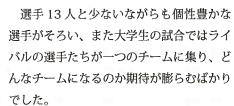
今大会を通じて、日本のチームとして、また個人としても、ヨーロッパ勢に通じること通じないことがわかりました。その成果と課題を生かして、どうすれば勝てるのか考えてこれからトレーニングしていきたいです。

また、今回のメンバーの中には次の世界学生に出られる選手が何人かいます。その選手たちが中心になって、次こそは日本にメダルを持って帰ってきてほしいです。

世界学生選手権大会に参加して

野路 良子

世界学生選手権大会に臨むに当たって、期待と不安を胸にチームに合流しました。

選手13人と少ないながらも個性豊かな選手がそろい、また大学生の試合ではライバルの選手たちが一つのチームに集り、どんなチームになるのか期待が膨らむばかりでした。

しかし、合宿が始まってみると、各チームのプレイスタイルは違い、合わせる時間が必要なのは明らかでしたが、その時間があまりないというのも事実でした。私たちは、短い練習時間の中で自分たちがやることを明確にし、練習中、ミーティングの時間、自由時間の中でコミュニケーションを積極的にとることで、練習時間の短さをカバーしていきました。

大会初戦は緊張と外国人との戦い方にとまどい、なかなか自分たちの戦いをすることができませんでした。しかし、２戦、３戦と試合を重ねるごとに、選手一人ひとりが自分の役割を果たすことでお互いの個性が生かされるようになり、チームが一つにまとまっていくのを実感しました。

最終順位は４位という結果で、メダルを獲得することはできませんでしたが、チームのテーマである“攻める”という戦いを最後までできたと思います。また、日本人の速さ、技術が世界に通用することを十分に見せることができたのではないかと思っています。

個人的にはまだまだ課題がたくさん残った大会でしたが、この経験を生かして自分の力にしていこうと思います。そして、U－23ではあるが、日本代表であり、“日の丸”をつけた誇りと責任をもって今後はナショナルという次のステップでプレイすることを目標に励んでいきたいと思っています。

試合結果

男子

■7月2日（日）：第1戦

日本　36（23－18, 13－10）28　ハンガリー（HUN）

まず、日本が中畠のキレのあるディスタンスシュートで先制した。その後、ハンガリーの長身のバックコートプレーヤーにディスタンスシュートを打ち込まれ得点されるが、日本は東長濱（秀作）、門山らのカットイン、中畠のディスタンスシュートで一進一退のゲーム展開。残り10分、日本は武田、海道、門山のディスタンスシュートで加点。そしてGK志水が7mスローをシャットアウト、東長濱（秀作）、中畠が会場を沸かすステップシュートを決め、前半を23－18で終了した。

後半に入り、両チームとも6：0DFから5：1DFへチェンジ。日本のOFリズムがうまく組み立てられずシュートミス、テクニカルミスが続いたために10分で27－26とハンガリーに迫られたが、ハンガリーの得点源だった大型選手に対して武藤が体を張って止めに行きシャットアウト。DFでリズムをつかんだ日本は東長濱（秀希）の速攻、また、全員で相手のDFを揺さぶりながら作ったチャンスを門山、中畠がしっかりと得点に結びつけた。何度となくハンガリーにチャンスが訪れたがGK東がファインセーブを連発し、残り20分を2点で抑えた。

■7月3日（月）：第2戦目

日本　34（19－12, 15－17）29　クロアチア（CRO）

立ち上がりから相手バックプレーヤーのディスタンスシュートで失点を許すものの、日本も門山・中畠・富田・東長濱（秀作）らがバランスよく得点を重ね一進一退の攻防が続く。均衡が破れたのは20分過ぎ。服部の速攻、門山のディスタンスシュート、富田のポストシュートの3連続得点で波に乗ると、海道・富田の速攻で点差が開き7点差で前半を終了する。

後半、前半の調子を維持したい日本、相次ぐ退場により苦しみ、一時は3点差まで詰め寄られる場面もあったが、富田・武田を軸とした堅いディフェンスで相手の攻撃を抑え、攻撃では門山・東長濱（秀作）へのダブルマンツーマンに対しても中畠・武田の鋭いディスタンスシュートで着実に得点を重ねクロアチアの追随を許さなかった。クロアチアの力強いディスタンスシュートに苦しむ場面もあったが、日本は終始チャンスを見逃さず、集中力を切らすことなく60分を戦い抜いた。

■7月4日（火）：第3戦目

日本　29（16－15, 13－13）28　ポーランド（POL）

前半は10分過ぎまで1点を取っては取られるシーソーゲーム。その後、ポーランドは門山にマンツーマンDFを仕掛けるが、東長濱（秀作）のカットインによる得点を皮切りに門山の速攻、富田らで5連続得点し、11－6と日本がリード。その後、ポーランドに追い上げられ16－15で前半を終了した。

後半に入り、20分過ぎまで一進一退の緊張状態が続き、日本は25－25の同点。その緊張状態を打破したのが門山の速攻。門山がポーランドのDFを割って得点すると、海道がインターセプトから得点、中畠のアシストからポスト武藤が7mスローを獲得。東長濱（秀作）が落ち着いて決め28－25。ポーランドはすぐさまポスト、サイドで得点し1点差になるが、武田の勝敗を決定付けるディスタンスシュートが決まり、再び2点差。そこから日本は執念のDF、7mスローで得点されるものの最終スコア29－28で勝利した。

■7月6日（木）：第4戦目

日本　34（17－21, 17－16）37　チェコ（CZE）

チェコは、開始からテクニカルミス、シュートミスなしの11得点。日本は得点が伸びず前半10分で5－10と離された。服部がチェコの高く上がったDFの下のスペースにタイミングよく合わせ得点すると、東長濱（秀作）の7mスロー、再び服部のサイドシュート、海道のカットイン、中畠のディスタンスシュートで加点する。しかしチェコも着実に得点を重ね、なかなか点差が縮まらない。17－21で前半を終了した。

後半に入ると、中畠のカットイン、海道の速攻、東長濱（秀作）のカットインで1点差まで詰め寄った。その後、攻撃が単発的なシュートで終わってしまい、24－28の4点差。しかし、ここからDFの要となる武田、武藤がチェコの攻撃リズムを崩してミスを誘い、ゲームメイカー海道が攻撃をリード、中畠がサイドから得点、門山、富田も執念のゴール。残り5分過ぎたところで再び32－34の2点差まで詰め寄るが、日本に退場者がでる。絶体絶命のピンチにGK東が7mスローをセーブし、チャンスをつなげるが、数的不利な状態の攻撃でミスが連続し点差を縮めることができず最終スコア34－37で終了。

■7月8日（土）：第5戦目（予選リーグ最終試合）

日本　32（11－20, 21－16）36　グルジア（GEO）

日本は立ち上がり海道がインターセプトから速攻で先制すると、中畠がディスタンスシュートで、門山がポストで合わせて得点し、出足は好調。グルジアは日本の6：0DFに対し、体格の良さを生かしながら一人一人が長くボールをキープし、クロスプレーからパワフルなディスタンスシュートを連発し得点を重ねた。15分過ぎまで一進一退の攻防が続いたが、グルジアは日本のシュートミスを速攻につなげ、着実に得点し、11－20で前半を終了した。

後半に入り、海道が速攻でチームを盛り上げ、果敢に攻撃を仕掛けるが、グルジアの勢いを止めることができず点差が縮ま

試合結果

らない。しかし15分過ぎ、グルジアの攻撃が単調になり、日本は相手のミスを誘い、武藤、海道らが速攻などで連続得点、5点差まで詰め寄った。焦るグルジアは危険なプレーが続出し、この日3枚のレッドカード。日本にチャンス到来、逆転の烽火を上げたが、5本連続の得点チャンスをものにできず、逆に6点ビハインド。「守って速攻」と必死に守る日本、志水のファインセーブ、門山の速攻、中畠らの連続速攻で3点差まで追い上げた。残り5分、ここぞというときに、再びグルジアのディスタンスシュートが入り連続得点。試合を決定づけた。

■7月9日（日）：5－6位順位決定戦

日本　35 (17－10, 18－15) 25　ラトビア（LAT）

前半のスタート、武田が速攻の展開から打点の高いディスタンスシュートを打ち込み日本が先制。海道のゲームメイクから門山がディスタンス、カットイン、そしてポストの富田、サイドから中畠らがコート狭しと多彩な攻撃を展開、守りではGK志水がラトビアの速攻、ポストシュート、サイドシュートを安定感抜群のキーピングで常に日本がリードした状況で試合が遂行した。特に、前半残り10分から門山がディスタンスシュート、カットインで連続得点すると、勢いに乗った日本は海道がカットイン、岸川の速攻、中畠のサイドシュートと得点を重ね17－10で前半を終了した。

後半に入ってからも、日本はチームの攻撃の組み立てから武田、岸川のサイドシュート、海道、門山のカットインで好調に得点を重ねた。ミスが出てもDFから速攻で武藤、武田が悪いムードを払拭。残り10分、棚原のディスタンスシュート、ポストの富田、サイドの岸川、海道が得意の速攻でシュートを決め、60分間コンスタントに得点できる力を見せつけた。最終スコア35－25でラトビアに勝利した。

女子

■7月2日（日）：第1戦目

日本　27 (10－13, 17－19) 32　リトアニア（LIT）

日本は亀山のサイドシュートで日本が先制点を挙げると、続く植垣の豪快なディスタンスシュートで2点を先取する。リトアニアも出だしミスが続いたが18番のエースの得点、ポストの強引なシュートですぐさま追いつく。日本は亀山、荒木の速攻で10－7と3点リードする。日本はディフェンスシステムを6：0、変則の1：5ディフェンスで相手のリズムを崩しにかかる。しかし、相手の18番のエースに連続得点を許し、テクニカルミスからの速攻を決められ、逆に前半を13－10の3点ビハインドで折り返す。

後半に入ってからは宮本をトップディフェンスにおいた5：1DFで攻撃的なDFシステムをひいたが、カットイン、サイドシュートを許し得点を挙げられる。日本は植垣、五月女のディスタンスシュートでくらいつくが、なかなか同点に追いつくことができない。最終的には32－27で初戦を落とした。

■7月3日（月）：第2戦目

日本　33 (17－10, 16－18) 28　チャイニーズタイペイ（TPE）

まずはチャイニーズタイペイ（以下TPE）が11番のディスタンスシュートで先制点を挙げる。日本はすかさず吉田のポストシュートで追いつくと、亀山、荒木のサイドシュートでなど4連取、大会に入り好調な植垣のディスタンスシュートで得点を重ね前半を17－10でリードする。

後半は、TPEが積極的な3：2：1DFをひくと、動きの止まった日本のオフェンスにミスが出始める。中盤TPEのラフなディフェンスが目立ち始め、退場者が出るが日本は数的有利な状況にもかかわらず相手のカットイン、ディスタンスシュートで失点を許し、点差が広がらない。逆にTPEは思い切りのよいプレーで得点を挙げじわじわと日本に迫る。しかし日本は前半のリードが功を奏し最後は33－28で逃げ切った。日本はディフェンスの部分で体格の劣るTPEオフェンスに対して引き気味のディフェンスとなってしまった。

■7月5日（水）：第3戦目

日本　26 (12－7, 14－12) 19　セルビア・モンテネグロ（SCG）

日本はディフェンスシステムを6：0から5：1変則の4：2など多彩なスタイルで相手の攻撃リズムを崩しにかかると、セルビア・モンテネグロはパスミスやインターセプトなどテクニカルミスを多発する。日本はそのチャンスを荒木、植垣らの速攻で確実に得点を重ねる。セルビアもディスタンスシュートで応戦するが、キーパー南が好セーブ、徐々に日本は差を広げる。日本は前半を12－7と5点差をつけて後半に入る。

後半に入っても日本、伊藤、入間川のディフェンス陣は積極的に相手選手にコンタクトし、相手にプレッシャーを与える。この日好調のキャプテン野路のルーズボールの獲得や、サイド亀山の強引なカットインなど攻撃への積極的な姿勢がチームの勢いを加速する。結局、26－19で快勝した。

■7月6日（木）　第4戦目

日本　32 (16－17, 16－17) 34　ハンガリー（HUN）

スタート日本はエース植垣の3連続ゴールで快調な滑り出しを見せる。対するハンガリーも14番のサイドシュート、カットインシュートなどで応戦する。序盤からスピードに乗った攻撃を見せる日本は荒木の速攻、野路のフェイントからのカットインなど、幅広い攻撃で得点を重ねる。ハンガリーは大型ポストにボールを集めだし、確実にゴールを奪いにくる。日本

試合結果

は調子の上がってきたGK南のファインセーブで流れを持ってくるが、相手のGKも負けじと好セーブを連発、前半を終了し16－17と一点のビハインドで終える。

サイドの変わった後半出だしハンガリーの速攻、サイドシュートで連続失点をするが、すぐさま植垣のディスタンスシュート、野路の速攻でくらいつく。中盤は一点差の緊迫した攻防が続く中、同点で迎えた残り7分入間川の退場をきっかけに3連取される。五月女の速攻で反撃するが万事休す、最後は32－34の2点差で接戦を落とした。

■7月7日（金）：第5戦目

日本　22（11－12, 11－14）26　ポーランド（POL）

スタートは日本のスピーディなパスワークでずらしの展開が成功するが、亀山のシュートをGKが連続セーブする。相手も速攻、カットインのノーマークシュートを南が負けじとセーブする。その後オフェンスのミスから相手に得点され6－1まで差を広げられる。ここで日本チームタイムアウトをとり指示の徹底を行なうと、市村のカットインで得た7mスローを植垣がきっちりと決めると宮本の連続速攻で6－5の1点差まで迫る。その後一進一退の攻防で前半を12－11とポーランドリードで折り返す。

後半、ポーランドは3連続7mスローを獲得。このまま一気に流れをつかむかに見えたが、日本も連続得点で追いつく。後半15分過ぎ、途中出場の仲宗根が獲得した7mスローを植垣が決め、日本が初めてリードを奪う。その後も南のファインセーブで差を広げ、3点差までリードをする。残り10分、前日のハンガリー戦同様日本が退場者を出すと、一気にリズムがポーランドに傾く。残り7分からポーランドが7連続得点を挙げると、日本は万事休す。22－26で敗れた。

■7月8日（土）：第6戦目（予選リーグ最終日）

日本　28（15－13, 13－14）27　チェコ（CZE）

日本は前日のゲーム、体調不良で調子の出なかったエース植垣が序盤から大活躍。前半だけで8得点を挙げる好調さを見せると、日本チームのいぶし銀亀山もサイド、速攻でチームに勢いをもたらす得点を挙げる。チェコも日本のプレスディフェンスに戸惑いながらも徐々に対応し始め前半終了時2点差まで詰寄る。

後半に入るとチェコは日本のプレスDFに対して4：2システムで攻撃し、ポスト、サイドで加点していく。日本も亀山のサイドシュート植垣のディスタンスシュートで引き離しにかかるが、チェコも粘り強く得点を挙げ、2点差以上開かない展開が続く。日本は残り3分野路が退場し、1点差まで追い上げられる。残り30秒チェコのマンツーマンプレスに宮本がオーバーステップの反則、チェコにボールが渡り残り5秒チェコのシュートがクロスバーにあたりリバウンドを五月女がキープしてゲームセット。大激戦の末、日本は28－27で勝利をつかんだ。

■7月9日（日）：3－4位順位決定戦

日本　30（16－17, 14－16）33　リトアニア（LIT）

出だし硬さの見られる日本は、リトアニアのカットインプレーを守りきれず3連取される。その後、落ち着きを取り戻した日本は野路のカットイン、亀山のサイドシュートなどで盛り返す。中盤、五月女のサイドシュートなどで一気にリトアニアに逆転、植垣の速攻、市村のブラインドシュートなどリトアニアを突き放しにかかるがリトアニアも4番ポストシュート、カットインで得点を重ねる。終盤ポスト吉田が顔面を強打してベンチに下がってからディフェンスの勢いがとまり相手に押し込まれ始め、前半を17－16の一点差で折り返す。

後半18番のリトアニアのエース、4番のサイドプレーヤーの連続得点を止められず一気に3点差をつけられる。途中野路の体を張ったリバウンド、宮本のディフェンスなど気迫を見せる日本だが、点差がなかなか縮まらず、残り3分、野路のディスタンスで一点差まで詰め寄るが伊藤が退場しビハインドのまま試合終了。

第11回 女子アジア選手権

2007年 世界女子選手権 アジア予選

選手団名簿

役職	氏　名	所属先名
団長	市原　則之	(財)日本ハンドボール協会
副団長	蒲生　晴明	(財)日本ハンドボール協会
監督	Bert Bouwer	(財)日本ハンドボール協会
コーチ	藤本　元	(財)日本ハンドボール協会
ドクター	佐久間　克彦	熊本赤十字病院
トレーナー	倉田　忠司	(有)トータルヘルスコンディショニング
情報分析	小笠原　一生	国立スポーツ科学センター

	氏　名	所属先名	出身校
GK	飛田　季実子	ソニーセミコンダクタ九州	福島女子高
	勝田　祥子	オムロン	武庫川女子大
	田中　麻美	日本ハンドボール協会	大阪体育大
CP	佐久川ひとみ	オムロン	浦添高
	坂元　智子	オムロン	夙川学院高
	水野　恵子	オムロン	熊本国府高
	東濱　裕子	オムロン	陽明高
	田中　美音子	ソニーセミコンダクタ九州	四天王寺高
	大前　典子	広島メイプルレッズ	四天王寺高
	谷口　尚代	日本ハンドボール協会	筑波大
	早船　愛子	GOG	筑波大
	金城　晶子	ソニーセミコンダクタ九州	武庫川女子大
	小松　真理子	イエイダ	小松商業高
	長野　かづさ	ソニーセミコンダクタ九州	桜花学園高
	中村　尚美	北國銀行	武庫川女子大
	藤井　紫緒	東京女子体育大	宣真高

アジア選手権報告と女子代表チームのこれからの展望について

女子代表チームコーチ　藤本　元

1．国内合宿について

アジア選手権の前に、東京女子体育大学の体育館と宿泊施設をお借りして、女子代表今回の国内合宿を6月17日～28日までの12日間行いました。この合宿では、第1週目を学習ウィーク、第2週目を大会準備ウィークと位置付けました。

（1）学習ウィークでの内容

学習ウィークでは、今までの戦術の細かい部分を練習するとともに、新たな戦術を加え、選手自身の創造性を含めた質的向上を狙いとしました。テーマは以下の通りです。

・防御におけるタックルとシュートブロック
・コンパクトな6：0DFでの防御同士のコンビネーションと、キーパーとのコンビネーション
・攻撃におけるにゴールに向かったパス
・ポストのスクリーンを使った2対2
・センターからのきっかけパターン
・速攻でのシステムの追加（ロングクロス）
・GKのキーピングバリエーションと戦術

なお、サポートコーチとして2名のデンマーク人コーチ（戦術コーチ、GKコーチ）を招き、様々な角度からチームを分析し、これらのテーマに沿ったトレーニングを行いました。

戦術コーチ…Carsten Albrektsen　デンマーク男子ユース・ジュニアチーム

GKコーチ…Peter Henriksen　デンマーク男子ナショナルキーパー（現役）

（2）U-23チームとの合宿合同開催

6月17～23日の5日間は、世界学生選手権に参加するU-23チームと合宿を合同開催しました。バウワー監督及び2名の外国人サポートコーチの指導を受け、代表チームの戦

最終結果

		韓　国	中　国	日　本	カザフスタン	数	勝－分－敗	得点	失点	差	点
1位	韓　国		27 ○ 26	31 ○ 23	39 ○ 16	3	3－0－0	97	65	32	6
2位	中　国	26 ● 27		29 ○ 27	34 ○ 18	3	2－0－1	89	72	17	4
3位	日　本	23 ● 31	27 ● 29		41 ○ 22	3	1－0－2	91	82	9	2
4位	カザフスタン	16 ● 39	18 ● 34	22 ● 41		3	0－0－3	56	114	-58	

術も学びながら、U-23チームとして大会の準備を行いました。次世代の代表選手の発掘及び養成も狙いとしています。

（3）ナショナルスタッフチームとの連携

ナショナルスタッフチームへ合宿開催をお知らせし、練習見学及び内容の説明とディスカッションする機会を設定しました。遠方からも指導者に見学に来ていただき、実際にバウワー監督やデンマーク人コーチ達とディスカッションする時間を持つことができました。

（4）大会準備ウィークでの内容

大会準備ウィークでは、アジア選手権での戦いを見据え、ゲームにおける戦術の骨組みとなるストラクチャーの練習を行いました。また、世界選手権で対戦し、アジア選手権でも初戦の相手となる中国の試合を観て、戦術の修正ポイントを確認しました。

大会へ向けての準備として、インターハイ東京都代表となる明星高校の男子チームと60分の練習試合を行いました。全員がストラクチャーを保ってプレーし、スピードとパワーのある男子高校生と互角に戦いました。島田審判部長の計らいで、国際レフェリーの安田・永春ペアーに来ていただき審判していただきました。両レフェリーは、ハーフタイムと試合後にレフェリングについてバウワー監督とディスカッションを行いました。

（5）総括

様々な人と連携し、様々な人にご協力頂き、アジア選手権に向けて、十分な準備を行うことができました。ただし、合宿中にゲガでのリタイアが4名にのぼり、コンディショニング管理に課題が残りました。

2．アジア選手権について

7月1～5日の間、中国の広州でアジア選手権が行われました。参加国は、北京オリンピックに向け大々的な強化を行っている中国、相変わらずの強豪の韓国、新たに韓国のコーチを迎え、メンバーも若返ったカザフスタンと日本の4カ国でした。この大会は、世界選手権の予選を兼ねていました。

（1）日本 対 中国　27－29（15－18、12－11）

中国とは世界選手権でも対戦し、29－34で敗れています。中国は、北京オリンピックに向け、集中的な強化を行っており、体つきもさらに大きくなってきている印象を受けました。前半の出足、勢いで圧倒しようとする中国に速攻で2連取されますが、坂元のポスト、田中（美）の速攻で追いつき、一進一退の展開となりました。後半、4点差をつけられ場面が3回ありましたが、田中（美）のリードから組織的に攻撃を継続する中で両利きの長野の巧みなシュートなどで得点し、1点差まで追い上げました。防御を修正し、粘り強く守り、藤井のロングシュートによる連続得点などを含め、最後まで勝てるチャンスを作りましたが、追いつけるチャンスでシュートを決められず、2点差の敗戦となりました。ゲームの出足での集中力の欠如なども含め、ゲームを勝ちきるためには、もう一つ、個人として、チームとして、成熟が必要であると感じました。

（2）日本 対 韓国　23－31（13－19、10－12）

前半、韓国はフェイントを生かしたパラレルのプレーを展開し、日本はそれに対し、コンパクトな6：0DFを用いました。相手のプレーに余計な反応をせず、ポイントとなるプレーをコンタクトし止めることで成功する場面もありましたが、前に出られずに得点を許す場面が目立ちました。攻撃では、藤井のロング、田中（美）のカットインなどで20分まで10－11、長野のロング、カットインなどで25分まで13－16とついていきましたが、残り3分で速攻を含め3連取され、6点差で前半を終了しました。

後半、田中（美）の3連取、相手の退場で日本のペースとなりましたが、日本は再三チャンスでのシュートを外し、点差が縮まらず、結局23－31で試合を終了しました。韓国に対する攻撃の糸口を見出せていたがゆえに、残念な結果でした。バウワー監督は、試合後、『我々は、我々自身に負けている。試合前、ハーフタイムにも強調した、防御におけるアグレッシブさと攻撃におけるゴールに向かう姿勢をもっと見せて欲しい』と選手に強く訴えかけました。

（3）日本 対 カザフスタン　41－22（20－12、21－10）

長身のシューターとポストがいるカザフスタンとの試合は、非常に難しい試合になることも予想されました。佐久

川の速攻、坂元のポストプレーの２連取でゲームは始まり、日本は10分で８－３とリードしました。田中（美）がマンツーマンされますが、準備していたシステムを使いながらコンスタントに得点し、20－12で前半を終了しました。前半に問題の出ていたポストをよりコンパクトな６：０DFで対応し、後半も集中力を切らさず、組織的に攻撃を重ね、41－22で勝利しました。

速攻時のテンポの変化、攻撃での組織的な展開からのコンビネーションが機能し、さらに前日に追加したダブルポストの展開など、練習で行われたことが試合に反映されたゲームでした。

この大会のベスト７に田中美音子が選ばれました。センターとしてリーダーシップを発揮し、自らもシステムの中で効果的に機能した田中はMVPも獲得しました。

（4）総　括

昨年５月にバウワー氏が監督に就任して以来、まず優先してトレーニングされてきたゲームの戦い方の骨組みであるストラクチャーが浸透し、誰が出ても組織的に戦うことができるようになってきました。それにより、世界選手権で平均20あったミスが、14に減りました。また、こうした戦いの中で田中（美）や坂元が軸になるとともに、谷口、長野、藤井といった若い選手の活躍がみられ、今後の明るい材料となりました。

バウワー監督は、来年度のオリンピック予選まで、大きな３つの課題を挙げました。

- 大学生を含めた優秀な選手が毎回トレーニングや大会に参加し、より多くの時間、代表チームとしての活動をすること。
- ゲームの中での相手のプレーをよみながら、素早く的確に対応できるように、このチームでより多くの高いレベルのゲームをこなしていくこと。
- 来年度に向けてフィジカル面、特に上半身の強化を行うこと。

次の大会は、アジア大会となります。アジア大会をはずみにし、オリンピック出場という目標に向かい、チーム一丸となって一歩一歩前進していきたいと思います。

アジア選手権を終えて

女子代表チームキャプテン　佐久川 ひとみ

７月１日～５日まで中国の広州にてアジア選手権大会が行われました。

この大会は、来年の世界選手権出場権を獲得する事は勿論、北京オリンピックを見据えて臨んだ大会でもありました。

初戦の中国戦、前半は自分達のリズムをつかめず、相手の勢いに押されてリードされましたが、後半に入ってからディフェンスが機能し始め、日本の持ち味である速攻やスピードあるプレーで得点を重ねる事が出来たものの、最終的には２点差で敗れました。

韓国戦は、中国戦での反省を活かして前半開始は積極的なプレーで互角な戦いをすることが出来ましたが、中盤から後半にかけてパスミス、キャッチミスを連発してしまいました。このミスで逆速攻から得点を許し大差で敗れました。

カザフスタンとの最終戦、ディフェンスで相手に体格を活かしたポストプレー等で得点を与えてしまいましたが、速攻などで得点を重ね一勝する事が出来ました。

３試合を通して60分間の中で良い時、悪い時の波がある事が反省、課題として残りました。

バウワー監督が求める常にゴールを狙う姿勢、そして体格差を感じさせないアグレッシブなハンドボールをチーム全員が表現し、世界にも通用するよう今後に向けて取り組んでいきたいと思います。

第31回 日本ハンドボールリーグ

日本ハンドボールリーグ機構事務局長　茂木　均

【第31回日本ハンドボールリーグ・レギュラーシーズン】	【第31回日本ハンドボールリーグ ANA CUP プレーオフ】
〈1部男子〉2006年9月2日（土）～2007年3月4日（日）	〈1部男女〉2007年3月17日（土）～3月18日（日）
〈1部女子〉2006年9月2日（土）～2007年3月4日（日）	

1．男女共に1部リーグ制へ

昨年度まで男子リーグは1部、2部に分かれていたが、今期から1部に統合し、10チームによるリーグとなった。2回戦総当り、プレーオフにはレギュラーシーズン上位4チームが進出する。

女子は昨年度の5チームから、三重花菖蒲を新たに加え、6チームとなった。3回戦総当りのレギュラーシーズンの上位3チームがプレーオフに進み、覇権を争う。

2．順位争い

男子は日本リーグを始めとする最近の各大会で、常に決勝で対戦し、熱戦を展開している、大同特殊鋼と大崎電気が優勝争いの本命。日本リーグプレーオフ（3月）、東アジアクラブ選手権（4月）、全日本実業団選手権（7月）と、続けて大同の軍門に下っている、スター軍団大崎がどの様に巻き返しを図って行くのか、大いに楽しみである。

この両チームに肉薄するのが、昨年度プレーオフ進出の湧永製薬とトヨタ紡織九州。

また、ホンダ、トヨタ車体、昇格組 NO.1 の北陸電力にも、今年度はプレーオフ進出の期待がかかる。池辺健二選手が監督兼務となったホンダ熊本、昇格組の豊田合成、トヨタ自動車の戦いぶりにも注目したい。

女子は昨年の全日本総合選手権、日本リーグ、東アジアクラブ選手権、全日本実業団選手権と、最近のタイトルを総なめにしているオムロンを中心に展開する。

追随するのは、ソニーセミコンダクタ九州。古豪復活にかける北国銀行にも期待がかかる。昨年度2位の広島メイプルレッズは、今期呉成玉選手を始めとする主力勢の移籍や引退で戦力的にダウンは否めないが、林五卿ヘッドコーチの手腕に期待したい。

また今期から参加の三重花菖蒲がどんな戦いを見せるか、注目される。HC名古屋との東海ダービーも楽しみだ。

3．北京へ向けて

2008年北京オリンピック出場をかけて、来年8月には、韓国で女子のアジア地区予選、9月には愛知県豊田市で男子の予選が行なわれる。日本代表選手の強化は厳しいリーグ戦での真剣勝負を通じて培われる。大いに注目してナショナル候補選手を見て欲しいし、気を抜いたプレーがあったら、ブーイングを浴びせて欲しい。

またオリンピック予選で日本の最大のライバルとなる韓国の、白元喆選手（大同）等に対して、日本のナショナル選手がどう対応していくのか、そうした観点から日本リーグの試合を観戦できるのも楽しみの一つだ。

4．ハンドボールファンの拡大

日本リーグでは、各試合会場で試合後のサイン会を実施するなど、ファンサービスの向上に努めている。7月22・23日の2日間、東京の国立スポーツ科学センターで、全国の日本リーグ開催地責任者に集まっていただき、研修会を実施し、各地の大会でのファンサービスの向上を図って行くこと等を確認した。

選手は観客の声援で、プレーの質が格段に向上します。

一人でも多くの方に日本リーグの試合会場に足を運んでいただき、応援をお願いいたします。

報告 日本代表男子U－21スウェーデン・デンマーク遠征

パルティレカップ（スウェーデン）・ドローニングルンドカップ（デンマーク）に優勝して

全日本男子U－21ヘッドコーチ　滝川　一徳

おかげさまで、7月4日から17日までの約2週間スウェーデン・デンマークに遠征し、2大会連続で優勝することができました。8月末に広島で開催されるアジアジュニア選手権大会に向けての強化として2つの大会に参加し、この遠征を通して大きな収穫を得ることができました。大会でのレポートを簡単に述べさせて頂きます。

大会前の準備

2月に玉村前監督とともにフランス遠征を実施致しました。フランスではトップリーグのチームから3部のチームまでを相手に6試合を行い、国内では経験できない高さ、パワーを選手達は実感しました。同時に玉村前監督と共に選手に伝えてきたOFでは常に動き、間をしっかり攻めること、DFではアグレッシブに連動して守ることの大切さを選手は身を以て体験し、再確認することで帰国することができました。

そして6月には北陸電力角谷監督、トヨタ車体酒巻監督のご尽力を賜り、サマーキャンプに参加させて頂きました。日本リーグチームと1日30分を7本こなすハードなスケジュールではありましたが、選手はフランスで得た経験プラス日本リーグチームの当たりの強さなどを改めて実感し、苦しい中でも必死に喰らいつき大変満足のいく強化ができました。この2つの遠征や合宿がなければ今回の成果はまず得られなかったと確信致しております。ご尽力を賜りました皆様に感謝の気持ちでいっぱいであります。

パルティレカップ（スウェーデン）

下はU－12から上はU－21まで男女のチームが世界各国から集い、ハンドボールコート（屋外人工芝）約40面で開催される大きな大会でありました。U－21は17カ国27チームが参加し予選リーグ6試合、決勝トーナメントはベスト16からのスタートになります。予選リーグで自分達の勝ち方を覚えていくと共に、上記の強化の成果が実を結び、体格のハンデなど全く感じさせない堂々とした試合をしてくれました。

世界学生選手権に参加した3名（棚原、東長濱、甲斐）の主力を欠きながらも、出場した選手全員が自分の持ち味を全面に出し迎えた決勝戦。同点で迎えた延長戦では、センターからジャンプボールを行い、1点先取のVゴール方式という変則的な形で熊谷、染谷が身を挺してボールを奪い、太田のパスから石戸のカットインで歓喜の優勝となりました。超満員の観衆の中、表彰台ではアナウンスから「チャンピオン！ジャパンナショナルチーム!!」、誇らしげな選手達の満面の笑顔を広島でも見たい、そう強く思いました。

ドローニングルンドカップ（デンマーク）

デンマークにフェリーで移動し、また3名の選手もポーランドから合流して参加した2つめの大会。スウェーデンの大会ほど規模は大きくないものの強豪クラブが集い予選3試合、準決勝リーグ2試合、そして決勝と堂々とした戦いぶりで勝ち進むことができました。観衆からはジャパンのDFは「エレガント」、OFは「スマート」と評され、アウェーであっても「ジャポン！ジャポン！」と日本の応援をしてくださる方々も試合を重ねるにつれ増えてきて、試合後はサイン攻めに合う選手がたくさんいました。国内ではなかなか味わえない経験をしたことと思います。2度目の表彰台、選手達は最高の笑顔で「CHAMPIONS」のジャージを頂きました。

今後に向けて

この遠征で計16試合を行い、規定違反のドイツチームと

の引き分けを除いて全勝することができました。選手は自信を持つと同時に反省と確認を繰り返し、チームの理念として私が提示した３つのＣ…Concentration（集中力）、Control（冷静）、Confidence（自信）とそれを助ける４つめのＣ…Communication（コミュニケーション）をよく理解し、「するべきことを意識する」「するべきことをしっかりやる」ことを実践し、お互いがしっかりと意見を出し、納得いくまで理解し合い、そして行動するという１つの、本当の意味での１つのチームになってきました。私は「２大会連続で優勝して帰国する」と現地に入ってのミーティングで話しましたが、目標を立てた時、それに向けて個人個人がしっかりと考え行動に移せるチーム、個人になってきました。

いよいよ広島での決戦となります。今まで支えて下さったたくさんの方々への感謝の気持ちを忘れず、22 年間出場していない世界ジュニア選手権に向けての必勝をお誓いし大会のレポートとさせて頂きます。関係各位の皆様、ジュニア強化に携わる多くの方々、そして大変お世話になった関沢計人トレーナー（茨城・下條整形外科医院）に深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

試合結果

PARTILLE CUP

◇予選リーグ
日本　19（10－2，9－2）4　Ale A/S（スウェーデン）
日本　24（10－4，14－0）4　SollentunaHK（スウェーデン）
日本　15（6－6，9－4）10　Norremarken HC（デンマーク）
日本　18（10－4，8－4）8　Titans HC1（カナダ）
日本　19（9－3，10－10）13　Brazilian HC
日本　18（11－2，7－5）7　TV Fischbek
◇準々決勝
日本　27（9－7，18－5）12　SGLVB Leipzig（ドイツ）
◇準決勝
日本　18（6－7，12－4）11　HK Aranas（スウェーデン）
◇決勝
日本　18(9－8，8－9，1－0)17　Norremarken HC(デンマーク)

【戦評】染谷の速攻で先取点を取ったが、すかさず相手エースがトリッキーなロングシュートで１－１。その後、石川のアンダーハンドシュートや野村のミドルシュート、生川のポストで加点するが、相手もエースのステップシュート、フリースローからのロングシュートで応戦し、８－８となる。前半残り２秒で石戸のロングシュートで１点追い越し９－８で折り返す。

後半に入るとロングシュートとみせてカットインするオフェンスに対応できず失点が続く。その間に染谷のサイド、石戸のカットインを相手 GK に阻まれ、残り５分で 15 － 16 と逆転される。粘る JAPAN は野村のロングなどで２連取し、残り 30 秒で逆転するが、残り 15 秒でセンターからミドルで同点にされ延長Ｖゴール方式へ。

センターラインからジャンプボールで開始。こぼれたルーズボールをキャプテン染谷がセービングで死守。セットオフェンスで石戸がアウトカットインを手をひっかけられながらもゴールにたたきこみ歓喜の優勝で幕を閉じた。最後の染谷のルーズボールをセービングで死守した、身体を張ったプレーが勝利へと導いた。

選手団名簿

	氏　名	所属先
ヘッドコーチ	滝川　一徳	(財)日本ハンドボール協会
コーチ	阿部　直人	(財)日本ハンドボール協会
コーチ	岩本　明	(財)日本ハンドボール協会
トレーナー	関沢　計人	下條整形外科医院

	氏名	所属先	最終出身校
GK	田中　雄大	筑波大	瓊浦高
	甲斐　昭人	日本体育大	小林工業高
	内田　武志	東和大	興南高
CP	太田　純二	東海大	伊奈高
	染谷　雄輝	日本体育大	伊奈高
	小川　雄也	日本体育大	伊奈高
	熊谷　孟	明治大	伊奈高
	野村　喜亮	早稲田大	下松工業高
	谷村　遼太	大阪体育大	高松高
	石戸　貴章	法政大	氷見高
	畑山　政也	国士舘大	浦和学院高
	棚原　良	日本体育大	興南高
	東長濱　秀希	日本体育大	興南高
	石川　出	日本体育大	興南高
	生川　岳人	日本体育大	北陸高
	松本　勇樹	大阪体育大	香川中央高
	小室　大地	藤代紫水高	玉造中
	信太　弘樹	藤代紫水高	麻生中

DRONNINGLUND CUP

◇予選リーグ
日　本　21（8－4，13－4）8　Neerpelt Sporting（ベルギー）
日　本　23（11－3，12－4）7　Billstedt Old Skool（ドイツ）
日　本　20（11－4，9－2）6　Titans Handball（カナダ）
◇準決勝リーグ
日　本　19（12－8，7－6）14　DRONNINGLUND IF（デンマーク）
日　本　22（10－4，12－3）7　Wuppertal LTV（ドイツ）
◇決勝
日　本　16（9－9，7－6）15　Norway Allstars（ノルウェー）

【戦評】体育館は約 1,000 人満員となり、完全にアウェイ状態であった。その状況で JAPAN からのスローオフで始まったが、全体的に「かたさ」がみられ、オフェンスミスが続く。３分、石戸の 1:1 でようやく先制。ノルウェーも JAPAN のミスをついて速攻で加点する。また徹底したステップ、ランニングシュートのオフェンスで JAPAN のディフェンスの間をつき、10 分４－５とされる。しかし JAPAN も染谷のサイド、石川・棚原のロング、太田の 7m スロー等で前半９－９で折り返す。

後半、ノルウェーの右バックからのステップ、センターからリリースポイントの低いアンダーハンドシュートで２連取され９－11。だが、JAPAN はよりアグレッシブにバックプレーヤーにプレッシャーをかけ、そこからの東長濱の速攻、染谷のサイドで 11 － 11。さらに野村の力強いカットインで逆転、同時に相手は退場となる。その間に野村のサイド、棚原のカットインで連取、14 － 11（10 分）とする。ノルウェーも速いボール回しからステップシュートやディフェンスからの速攻で粘り、残り１分で 15 － 15 とされ、体育館はノルウェー応援最高潮となる。その後、オフェンスで相手のディフェンスに粘られるも、石戸がミドルシュートでねじこみ、ラストディフェンスを全員で死守。16 － 15 で優勝した。

大会を振り返って

岐阜県ハンドボール協会理事長　杉本 眞一

豊かな自然に恵まれ、歴史と伝統に育まれたこの岐阜の地に、西日本各地から多数の選手・役員の皆様方をお迎えして、全国クラブハンドボール選手権大会を開催できましたことは、本県ハンドボール協会にとりましても大変意義あるものとなりました。日本リーグや実業団チームのない本県にとりまして、今大会でのクラブチームの活躍をみておりますと、今後の岐阜県の強化・発展のために大いに参考となりました。

今大会では、男子12チームが1日目に予選リーグ、2日目は決勝リーグ、順位決定を行い、女子は8チームによるトーナメントを実施いたしました。選手たちは1日に2試合を戦うため、かなりの体力が要求されましたが、さすがに各地区ブロック代表の選手だけに、怪我によりリタイアする選手はいませんでした。準決勝・決勝に出場してくるチームは、個々の技術もさることながら、練習量が豊富でゲームの終盤でのスピード・スタミナが要求される時間帯にも、体力の衰えを感じない好ゲームを観戦させて戴きました。このことは、今後本協会の競技力向上のための財産とし、参考としていきたいと思います。

今年度、選手の皆様が快適に安心してプレーできるように配慮いたしましたが、ゲーム時間や組合せ等に多少のご意見もありました。次期開催地において検討して戴きたいと存じます。

終わりに、本大会にご尽力いただきましたすべての方々に感謝申し上げるとともに、クラブハンドボールが日本ハンドボール界発展の基であると確信いたします。

【戦　評】

※試合結果は、「スコアールーム」に掲載されています。

●男子決勝

MHC　30（15-15, 15-13）28　下松クラブⅡ

立ち上がり、下松クラブⅡのサウスポー元久のミドルとMHC千種のサイドシュート等で互いに点の取り合いの様相、一進一退を繰り返しながら前半を15－15で終えた。

後半はMHCの速攻で効果的に得点を重ね、常に2～3点のリードで試合を運んだ。下松クラブⅡは得点力のある元久を前半途中から腰の痛みで欠くことになり、最後まで影響を与えてしまった。

結局MHCが高さとスピードで下松クラブⅡを退けた。

優勝したMHCのメンバー

●女子決勝

コスモスビッキーズ　26（12-6, 14-10）16　GET "S

コスモスビッキーズが阿部のミドル、河野・大津のポスト・サイドシュート等、多彩な攻撃及びキーパー藤崎の堅実なキーピングで、小柄ながらスピードのあるGET "Sの高宮・陣崎の攻撃をおさえ、前半リードで折り返した。

後半に入っても佐藤・阿部のロングが決まり、コスモスビッキーズペースで試合が進んだ。GET "Sの矢野・高宮もよく頑張ったが全体的に足が止まり、ミスからの失点でリードが広がった。惜しむらく、コスモスビッキーズに退場者が出た時に得点できず、逆に失点したことが後になり影響を与える結果となった。しかし、決勝戦にふさわしい内容ある試合であった。

優勝したコスモスビッキーズのメンバー

第26回全国クラブハンドボール選手権大会 東 地区大会

大会を振り返って

福島県ハンドボール協会事務局　飯塚 敏章

全国クラブ大会が東・西地区に分かれての開催となって11年目となりました。西地区は毎年開催地が変わっているようですが、東地区大会は毎年福島県本宮町で開催されています。今年も各ブロック予選を勝ち抜いた強豪チームが互いの力と技を競い合うべく、ここ福島県本宮町に集結し、熱戦が繰りひろげられました。

また、今年の全国クラブ大会東地区大会は日本ハンドボール協会公認審判員Ａ級の審査会になっており、合格目指して真剣に取り組む受験者の一面が覗けたのも意外な収穫でした。

なお、本大会開催にあたり日本ハンドボール協会常務理事の村松誠氏、審判部長の島田房二氏が来福されましたことに御礼申し上げます。

※試合結果は、「スコアールーム」に掲載されています。

【戦　評】

●男子決勝

渡辺組　36（20-13, 16-13）26　BG21

東北ブロック１位と関東ブロック１位の両チームが危なげなく決勝へ進出。BG21では２番白澤・３番森・14番小山、渡辺組では４番光武・13番近藤・20番高野がチームの得点源となっているため、ディフェンスがどれくらい彼らを封じ込められるかが試合のキーポイントであったと思う。

前半は互いに警告を受けながらも、１人も退場者を出すことなくクリーンな試合が展開されたが、BG21のオフェンスファールやオーバーステップなどのミスが目立ち、そこから渡辺組の素早いボール出しによる逆速攻があって、20－13で渡辺組が７点リードで前半終了。

優勝した渡辺組のメンバー

後半５分、得点源であった渡辺組20番高野が退場となり、BG21に勢いが傾き始めたが、渡辺組の冷静な試合運びで点差をキープする。一方、後半12分にBG21の10番齋藤が退場すると、渡辺組は一気に攻撃を仕掛け、そこから６連続得点をあげるなどして、終始ゲームの主導権を渡さなかった渡辺組が勝ち、通算２回目の優勝を成し遂げた。ベンチには選手たちの恩師である渡辺先生が檄を飛ばしながらも、温かく見守っていた光景が印象的であった。

●女子決勝

SAKURAクラブ　21（12-7, 9-7）14　オレンジクラブ

釧路クラブとの準決勝戦を圧勝し、決勝進出したオレンジクラブと、延長までもつれ込んだ激戦の準決勝戦を制したSAKURAクラブの関東チーム同士の対戦。前半12分以降、SAKURAクラブ13番酒井のシュートが決まりはじめ、徐々に点差が広がる。オレンジクラブも５番田所が大事なところでミドル・カットインシュートを決めていたが、前半15分にポイントゲッター５番田所が退場となったことでリズムが崩れはじめたのか、SAKURAクラブに３連続得点を許し、オレンジクラブが５点ビハインドで前半終了。

優勝したSAKURAクラブのメンバー

後半になっても、オレンジクラブの得意とする華麗なパス回し・ポストプレーが見られなかったこと、SAKURAクラブ12番GK中澤のナイスキーピングがあり、オレンジクラブは勢いに乗ることができず、SAKURAクラブが21－14で勝利し、初優勝を成し遂げた。

～注目を集めるために・・・～

企画・広報委員
早川　文司

フリースロー
Free Throw

大相撲名古屋場所千秋楽結び、横綱朝青龍と横綱昇進を目指した白鵬との一番は、テレビ観戦していて久しぶりに力が入った。「青鵬時代」の幕開けを予感させるにふさわしい大一番と言ってよかろう。

最近の大相撲は将来有望な力士が土俵を盛り上げている。白鵬のほか把瑠都、露鵬、名古屋場所は途中休場したが朝赤龍らだ。ただ残念というかさびしいというか、こうした力士が外国人であることだ。「日本人力士頑張れ」と叫びたくなる。

しかし、一時は低落が言われた大相撲人気が彼らの活躍によって復活してきている点は喜ばしい限りである。

ハンドボール界においても、やはり人気を引き寄せる対策は必要であることは間違いない。それには何が重要か。やはり日本中が興奮する「オリンピック」出場は絶対だが、それだけでなくもっと話題の提供、ヒーローの誕生が欠かせない。

「宮崎大輔人気」に次ぐ「人気者」の出現も待たれる。さらにスケジュール調整によって途切れることなく大会が開催されることも必要ではないだろうか。それがメディアなどに取り上げられることで、関心を引くことだってできるはずだ。せっかく連日一生懸命激しいトレーニングをしてきて、それだけで満足しているのはもったいない。もっともっと、外に向けてのアピールをしていけば、それなりの効果があらわれるのではなかろうか。

日本リーグの効果をいっそう高めるために、どんな手を打つべきか。確かにナショナル活動など日程的に難しい点があることは理解できるが、手をこまねいていいわけはない。年度初めに何かムードを盛り上げるイベントなど考えることはできないものか。年間通してメディアの、ファンの注目を集める対策が望まれると考える。

地道なファン開拓と並行して即効的な対策も必要があろう。メディアへの接触、情報提供も欠かせない。なぜなら…オリンピックに欠場を続けている競技だからといわざるを得ない面もある。選手のＰＲでもいい。チームの話題でもいい。とにかく今以上に外に向けての情報発信することを常に頭の片隅においておくことが大切だろう。当面のアピールの場、ドーハ・アジア大会はもうすぐ始まる。まずはそこをチャンスとばかりアピールの場にしたいものである。

NTS2006報告

NTSコーディネーター　田中　茂

今年も暑い夏が続いておりますが、NTS開催協会、関係各位、NTSインストラクターにおかれましては、NTSブロックトレーニングにご参加、ご協力頂き誠にありがとうございます。

7年目となりましたNTSも、各地で充実したトレーニングが行われ、年始に開催されますセンタートレーニング目指し多くの若いハンドボーラーが夢に向かってチャレンジしている事と思います。

今年度も、昨年のNTSセンタートレーニング後に選ばれました日本代表各カテゴリーの選手が世界の舞台で活躍しております。

各カテゴリーの成績は既にご存知であると思いますが、再度、選手の頑張りをお知らせしたいと思います。

【大会結果】

■第２回男子アジアユース（U－19）選手権（2007年世界選手権アジア予選）
　平成18年６月25日～30日　　開催国：イラン　　　　　４位

■第６回女子世界学生ハンドボール選手権大会
■第18回男子世界学生ハンドボール選手権大会
　平成18年７月１日～９日　　開催国：ポーランド　　女子　４位
　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　男子　５位

【今後の大会】

■第１回女子ユース（U－18）世界選手権
　平成18年８月11日～20日　　開催国：カナダ

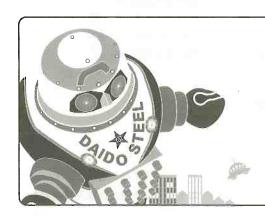
■第10回アジア男子ジュニア選手権（2007年男子アジア世界選手権予選）
　平成18年８月21日～31日　　開催国：日　本（広島）

今回参加した、参加する選手達はNTSの一貫指導システムを通じて発掘、育成された選手であり各カテゴリー日本代表として好結果を残してきております。今後に期待できる若い選手が世界で結果を出していくためにも、各地で開催されますNTSブロックトレーニングでより多くの優秀な選手を発掘し育成していかなければなりません。

日本代表強化、オリンピック、世界選手権出場、また長期計画の中での、オリンピック、世界選手権上位入賞、メダル獲得と日本ハンドボール競技力向上、発展のために、選手発掘、育成はNTSの重要な役割を担っております。より多くの優秀な選手が発掘、育成できるよう、関係各位、インストラクターの皆様のご協力を改めましてお願い申し上げます。

【NTS2006Ｔシャツ】

NTS2006Ｔシャツを各ブロックトレーニングに参加している選手にお渡ししています。今年度のＴシャツはブロックトレーニング参加者は青のＴシャツ、センタートレーニング参加者には赤のＴシャツをお渡しいたします。

センタートレーニングに参加できるように、選手の皆さん頑張ってください。

平成18年3月19日、渋谷：ホテルサーブ会議室において、第4回ハンドボールコーチング研究会が開催されました。先月号より、過日のハンドボール研究会の発表につきまして、本誌で報告する運びとなりました。今月は日本女子体育大学大学院の島尻真理子さんの発表内容「パソコンを利用したリアルタイムゲーム分析システム」を報告させていただきます。なお、他の発表については次号以降で報告を連載いたします。

(財)日本ハンドボール協会指導委員会研究部会　舎利弗　学（学校法人福島高等学校）

パソコンを利用したリアルタイムゲーム分析について

―ハンドボールにおけるその手法と有用性について―

島尻　真理子（日本女子体育大学大学院）　三輪　一義（琉球大学）
藤井　透（株式会社ダートフィッシュ・ジャパン）　笹倉　清則（日本女子体育大学）

キーワード：ゲーム観察、ゲーム分析、ゲーム評価

Ⅰ．はじめに

ここ数年、ハンドボールにおける攻撃回数は、70回を越えるゲームも稀ではなくなり、勝者のみならず敗者までもが30得点を超えるなど「攻撃優勢の速攻型ハンドボール」の傾向にあるといえる。この展開の速いゲームにおいて、監督、コーチ、選手は、指導およびプレイをする際、ボールの動きのみならず、味方を含む他のプレイヤーの動きについても配慮する必要がある。このことは、ハンドボールのみならず、勝つことを目的の一つとする競技スポーツ全般において共通していえることではないだろうか。

上記のような、速攻やクイックスタートなどの速い攻撃展開では、瞬時の状況判断が求められる。

それは、常に、ボールの喪失または失点につながる恐れのある技術的ミスや判断ミスといったリスクと背中合わせにある。そのため、これらのリスクをいかにして減らすかが勝負の鍵となってくる。

しかし、その戦術課題に対する主な解決策といえば、指導者の経験や知識を基に評価・実施されている現状にあり、自チームの客観的分析、即時的あるいは中長期的な練習へのフィードバックに対して、曖昧さや限界が生じてしまう可能性も否めない[1]。

今日、技術・戦術の客観的分析やフィードバックの一助として、「スコアシート」によるゲーム分析法が用いられている[2]。しかしこの手法は、手書きによるシートへの記入であるため、手間や時間がかかる、得られたデータを即時的に把握あるいはフィードバックすることが困難であるなどの問題が生じることが、容易に想像できる。

そこで本研究では、ゲーム分析のもう一つの手法である、パソコン（以下、PC）によるゲーム分析法に着目し、分析シートの作成と分析例から、その有用性を検討した。

Ⅱ．分析システムについて

分析シートの作成に際し、ダートフィッシュ・ジャパン社製の動作分析ソフト“ダートフィッシュ・ソフトウェア 4.0 TeamPro Version”（以下、チームプロ）の機能の一つである、戦術やフォーメーション分析を行うための“タギング”機能を使用した。

1．分析シート

チームプロにおけるタギングは、野球やサッカー、バスケットボールなど、様々なスポーツに対応できるよう一般化された分析システムである。そのため、各種競技の指導者や研究者によって、さらには、各人が必要とするデータ内容に沿って、分析シートを作成する必要がある。

2．分析項目

ゲーム分析を行うにあたり、指導者や研究者により、その分析項目は異なる。そのため、本分析シートでは、ゲームの時間経過に伴う攻撃の最終場面を入力することを目的とし、日本ハンドボール協会編著『ハンドボール指導教本［新訂版］』[2]に紹介されている分析項目を参考に、いつ、「誰が」、「どこで」、「何を」したのか、その「結果どうだったのか」の4項目を基本として作成した（図1）。

尚、データおよび映像は、基本となる4項目を中心に、1イベントとしてPC内に自動的に保存される。

図1　分析シート（イメージ図）

Ⅲ．操作手順

分析は、チームプロがインストールされたPCに、Digital Video Cameraを接続して行われる。

ゲーム開始後、一つのイベントが終了するごとに、画面上の分析シート内にある「イベントボタン」と呼ばれる入力開始ボタン（図2では「選手No」ボタン）をクリック、その後、オ

表1　ランニングスコア（イメージ）

Time	デュレーション	GK (TeamB)	GK (TeamA)	Team A	Team B	クイックスタート	ミス	前後半	継続プレー	罰則	速攻種類	TeamA 7mT GK	TeamB 7mT GK	サイドシュート	シュート結果	シュートコース	ポジション
54487	4738	1	12		14			前半							ゴールイン	6	ＣＲ
77550	6000	1	12	24			ＰＭ	前半								14	
86891	5000	1	12		17			前半							ゴールイン	1	ＬＣ
117990	6000	1	12	33				前半							ゴールイン	8	ＰＣ
152624	5000	1	12		17			前半							バー	15	ＬＬ
1713408	2469	1	12	24			ＰＭ	後半									
1741846	5000	1	12		17			後半							ＧＫセーブ	5	ＬＣ
1831070	6000	1	12	6			ＰＭ	後半									
1835646	4604	1	12		10		ＰＭ	後半									
1840251	9209	1	12	24				後半			パスカット				ゴールイン	8	速攻

図2
一つの攻撃の最終場面で行う操作手順（攻撃をシュートで終えた際の1イベント例）

フェンス動作の結果までをリアルタイムに、順を追ってクリックしていくだけである（図2）。

また、万が一、イベント入力の際に、クリックする箇所を間違えたとしても、その場であるいはゲーム終了後に修正することが可能である。

さらに、保存されたデータでは、ランニングスコア（表1）としてのみならず、並べ替え機能や作図機能を利用して図示するなど焦点を絞った分析が可能となる。また、タギング内での指定した条件に関するデータやリンクされた映像の検索、チームプロ内の他の機能へエクスポートさせてのスポーツ生理学やスポーツバイオメカニクスといった自然科学的な観点からの分析も可能である。

尚、イベントボタンは、クリックした瞬間から、その前6秒間のイベントのデータおよび映像が、自動的に保存されるよう設定した。保存された映像は、その場であるいはゲーム終了後、必要だと思われる時点（時間帯）からイベントを再生するよう修正することが可能であるが、一つのイベントが終了したと判断した時点で、すぐさまクリックすることが望ましい。

Ⅳ．まとめ

本分析ソフトの機能を用いて作成した分析シートと、それによって得られるデータから、以下のことが明らかとなった。

①これまで別々に行ってきた記述と映像による競技力の客観化を同時に行うことができ、より効率的な分析が可能である。

②指導者や研究者ら各人の「オリジナル」な分析シートを作成することが可能であり、手間や時間をかけることなく、必要なデータを必要な量だけ得ることが可能である。

③本分析ソフトならびに分析シートから、リアルタイムでのデータ入力が可能であり、ハーフタイムを含むゲーム中あるいはゲーム終了直後における即時のフィードバックが、従来の分析方法に比べ、より効果的に行える。

④本分析ソフトを用いた分析では、得られたデータをどう生かすのかなど、今後、更なる検討の余地が必要ではあるものの、分析力や戦術の発展の可能性を十分持ち合わせている。

以上のように、本研究では、PCによる分析法の有用性を検討してきたが、チームプロは、Windows2000以降のWindowsコンピュータでなければ使用できない、より正確なデータを即時に得るためには入力者の操作経験が必要不可欠であるなどの問題点もいくつか挙げられる。また、その分析の視点は、指導者らによって際限なく存在する。そこには、指導者および研究者がどのようなデータを求め、それらをどのように分析するのかといったことが、個々の判断に委ねられている現状がある。

今後の課題として、本分析ソフトならびに作成した分析シートを用いて得られたデータを基に、どのような視点で分析を行うことが、より効果的なフィードバックをもたらし、適切な戦術行動の選択が行えるのかといった『指導現場におけるデータの活用法の研究』が急務であると考える。

Ⅴ．引用・参考文献

1）榎本至・南隆尚（1998）水球競技のリアルタイムゲーム分析システム，バイオメカニクス研究 Vol.2 No.3：p.166 - 172.

2）財団法人 日本ハンドボール協会（1996）ハンドボール指導教本，大修館書店：p.203 - 211.

3）平岡秀雄ほか（2004）多用途ゲーム分析ソフトについて－ノートパソコンを利用して－，ハンドボール研究 第6号，財団法人 日本ハンドボール協会：p.64 - 67.

4）ヤーン・ケルン著（2002）スポーツの戦術入門（朝岡ほか監訳），大修館書店.

地域振興プロジェクト

地域活性化助成制度の設置について

1．目　的

ハンドボール界の発展は、ナショナルチームの活躍もさることながらはば広く様々な階層でハンドボールを楽しめる環境を作ることである。

とりわけ、将来へつながる少年層の環境つくりは重要な意味を持っている。

各県協会の少年層に対する意識の変化はこの数年の間に、大きく変わりつつある。その変化は次のようにまとめることが出来る。

①各協会内での普及関係の位置付け、比重の高まり
②小学生チームへの関心の高まり
③中学校チーム数の減少に伴う部活動以外のスポーツ活動への関心の高まり
④各年代の発達段階を考えた指導体系の必要性の高まり

少年チームの創設については、平成15年に配布した「少年チームを作ろう」のパンフレットにあるように、各地域にあわせた人、物、金の活用を進めてゆくことが必要である。さらに、今年度の各ブロック少年チーム創設・整備会議等々で話題に上がった中の一つに、チームの創設を進めたり、活動の活性を図るには「交流会・大会」など場の設定の要請が多く聞かれた。

この点については平成15年度より「U－15ブロック大会補助」を行ってきている。

この事業については対象をU－15の中学生チームに限定しているため、未だ機の熟さない（環境の整わない）ブロックが多く十分に効果が出ていないのが現状である。

そこで、「U－15ブロック大会補助」の対象である

各ブロックにおいてスポーツ教室、少年団において中学生クラブとして活動しているハンドボールチーム

の枠を広げ、

各ブロック、**地域の**スポーツ教室、少年団において活動している**小中学生**のハンドボールチーム

とし、「地域活性化助成事業」として交流会・大会の開催を助成しようとするものである。

2．補助の額

地域活性化事業補助金　100,000円

3．補助の対象

①ブロック中学生大会（従前の大会）
②県中学生大会、小学生交流会、大会
③市町における小中学生交流会・大会

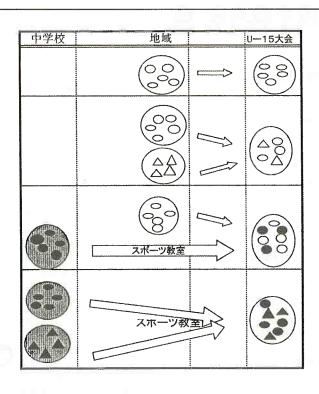
4．補助の決定、範囲

①各ブロック協会において承認決定された事業であること
②基本的に普及を目的とする事業であるため、チームの立ち上げ、成果発表、または全国大会予選、ブロック大会の開催が困難な地区等への補助であること
③事業範囲は、ブロックに限ることなく、県、地区、市、町の範囲でも可能である
④助成の額の範囲内で複数の事業を対象とすることが出来る
⑤市町における小中学生対象事業は少なくても3チーム以上の参加規模である事が望ましい

5．補助金支出の対象

①会場借上費、②用具購入費、③役員、補助員交通費、④講師、指導者謝金

6．対象チームの形態

①中学生チーム（日本本協会への登録がされている、または、すること）
②小学生チーム（日本協会への登録がされている、または、すること）
・クラブチーム、スポーツ少年団
・学校単位のチーム

・地域における中学生クラブチーム

・地域における複数の中学生クラブチームの合同

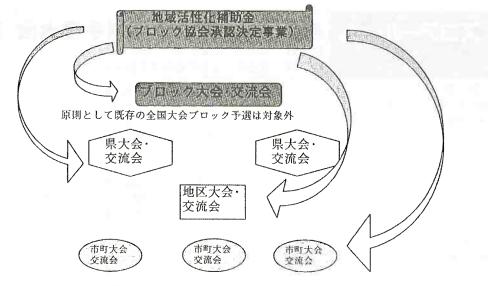
・地域における中学生クラブチームとスポーツ教室を経ている中学校チームの合同

・スポーツ教室を経ている中学校同士で編成された合同チーム

7．その他

ブロック、県、地域、市町におけるハンドボール事業にかかわる交流会、フェスティバル等々への助成

8．手続き

①「地域活性化事業補助」制度のＰＲ
・ブロック協会・県協会から地域、市、町へ
②事業立案
・日本協会へ実施要綱を提出（ブロック協会の承認が必要）
③実施後
・事業結果、決算書（領収書添付）を提出
④補助金支払い

スコアールーム①　第26回全国クラブ選手権大会・西

期　日：2006年7月14日（金）～16日（日）
会　場：岐阜市・岐阜アリーナ

【男　子】

▼予選リーグ・Aブロック

下松クラブ2	21（13－8，8－9）17	北送会
北送会	25（15－4，10－8）12	笠松クラブ
下松クラブ2	28（17－5，11－10）15	笠松クラブ

▼予選リーグ・Bブロック

SOCIO OSAKA	21（10－5，11－4）9	中央クラブ
中央クラブ	24（10－8，14－9）17	市岐商クラブ
SOCIO OSAKA	23（12－7，11－10）17	市岐商クラブ

▼予選リーグ・Cブロック

アローズ高知	23（9－5，14－15）20	那覇西クラブ
那覇西クラブ	20（11－14，9－5）19	東海学連クラブ
東海学連クラブ	23（11－7，12－11）18	アローズ高知

▼予選リーグ・Dブロック

総社クラブ	20（8－8，12－11）19	HC奈良
MHC	20（11－9，9－10）19	総社クラブ
MHC	27（12－12，15－10）22	総社クラブ

▼決勝トーナメント1回戦

下松クラブ2	22（9－9，13－7）16	SOCIO OSAKA
MHC	18（11－9，7－8）17	東海学連クラブ

▼9位－11位決定戦

笠松クラブ	21（10－7，11－10）17	市岐商クラブ
那覇西クラブ	22（9－11，13－9）20	HC奈良

▼5位－7位決定戦

中央クラブ	20（10－8，10－6）14	北送会
アローズ高知	23（10－9，13－8）17	総社クラブ

▼3位決定戦

SOCIO OSAKA	29（9－8，12－13）25 （8　延長　4）	東海学連クラブ

▼決勝

MHC	30（15－15，15－13）28	下松クラブ2

【女　子】

▼1回戦

徳山クラブ	19（8－9，11－7）16	ninfa' kagoshima
GET" S	22（10－4，12－7）11	愛知WINS
コスモスビッキーズ	25（15－3，10－6）9	BRHC
大阪教員	26（14－3，12－2）5	香川レディーズ

▼5位－8位決定戦

ninfa' kagoshima	21（10－6，11－11）17	愛知WINS
BRHC	14（9－5，5－5）10	香川レディース

▼5位－6位決定戦

ninfa' kagoshima	19（11－4，8－10）14	BRHC

▼7位－8位決定戦

愛知WINS	20（10－6，10－10）16	香川レディース

▼準決勝

GET" S	18（7－11，11－6）17	徳山クラブ
コスモスビッキーズ	27（14－9，13－11）20	大阪教員

▼3位決定戦

大阪教員	23（10－12，13－7）19	徳山クラブ

▼決勝

コスモスビッキーズ	26（12－6，14－10）16	GET" S

スコアールーム②　第26回全国クラブ選手権大会・東

期　日：2006年7月28日（金）～30日（日）
会　場：福島県・本宮町総合体育館ほか

【男　子】

■会長杯トーナメント

▼1回戦

BG21	29（14－13，15－12）25	甲府クラブ
小金クラブ	31（12－12，19－13）25	学石クラブ
岩手教員ハンドボールクラブ	38（16－16，22－16）32	長野クラブ
桜門クラブ	25（13－8，12－11）19	湖陵クラブ
蓮田クラブ	22（12－9，10－10）19	きときとクラブ
福島SGクラブ	25（5－7，20－9）16	土浦三高クラブ
青商クラブ	39（19－5，20－10）15	h・c・million
渡辺組	21（12－4，9－9）13	GOTTS

▼2回戦

BG21	23（14－8，9－13）21	小金クラブ
桜門クラブ	23（9－10，14－12）22	岩手教員ハンドボールクラブ
蓮田クラブ	28（13－9，15－14）23	福島SGクラブ
渡辺組	33（21－8，12－17）25	青商クラブ

▼準決勝

BG21	29（15－11，14－13）24	桜門クラブ
渡辺組	31（18－7，13－13）20	蓮田クラブ

▼決　勝

渡辺組	36（20－13，16－13）26	BG21

■町長杯トーナメント

▼1回戦

学石クラブ	23（12－6，11－11）17	甲府クラブ
湖陵クラブ	35（17－12，18－11）23	長野クラブ
土浦三高クラブ	26（9－10，11－10）25 （6　延長　5）	きときとクラブ
h・c・million	24（12－2，12－13）15	GOTTS

▼準決勝

学石クラブ	20（9－9，11－8）17	湖陵クラブ
土浦三高クラブ	23（11－9，12－6）15	h・c・million

▼決　勝

学石クラブ	27（12－8，15－9）17	土浦三高クラブ

【女　子】

■会長杯トーナメント

▼1回戦

オレンジクラブ	17（9－7，8－7）14	べにばなクラブ
釧路クラブ	11（4－6，7－2）8	チームふくしま
SAKURAクラブ	17（10－6，7－7）13	五ツ星
筑波学園クラブ	21（12－9，9－9）18	福島クラブ

▼準決勝

オレンジクラブ	23（10－4，13－5）9	釧路クラブ
SAKURAクラブ	25（9－12，12－9）24 （4　延長　3）	筑波学園クラブ

▼決　勝

SAKURAクラブ	21（12－7，9－7）14	オレンジクラブ

■町長杯トーナメント

▼1回戦

べにばなクラブ	23（8－3，15－4）7	チームふくしま
福島クラブ	19（9－7，10－7）14	五ツ星

▼決　勝

福島クラブ	16（10－10，6－5）15	べにばなクラブ

がんばれハンドボール10万人会「サポート会員」7月入会・継続会員

【北海道】畑中　裕　【岩手】上川正二　【宮城】千田文彦、加藤宏之　【茨城】亀崎拓也　【埼玉】田中　孝、石井常子、中野慶子　【東京】鈴木明美、木津喜弘倫、河内鋭雄、伊藤隆幸、安藤純光　【山梨】天野盛夫、齋藤　實　【富山】藤井清勝、旅　文夫、旅　和子　【福井】村上重治　【岐阜】森川俊章　【大阪】伊藤慎吾、戸谷克蔵、里村静俊、奥浜　清、三好直樹　【奈良】奥山美樹　【福岡】柏木　晃　【長崎】石井通義、石井弥生　【熊本】中川光明　【鹿児島】井料たか子

【9月の行事予定】

【会　議】………………………………………………………

9月9日(土)

常任理事会（東　京）

【大　会】………………………………………………………

9月2日(土)

第31回日本リーグ開幕（各　地）

9月13日(水)～18日(月)

第10回日韓スポーツ交流（女子／派遣）

9月22日(金)～27日(水)

第10回日韓スポーツ交流（女子／受入）

（石川県・小松市）

平成19年度第62回国体秋田わか杉国体「ブロック割当チーム数」

	少年男子	少年女子	成年男子	成年女子
チーム数	16	24	24	16
北海道	1	1	1	1
東　北	2	2	3	2
関　東	3	5	5	2
北信越	1	2	2	2
東　海	2	3	3	2
近　畿	2	3	3	2
中　国	1	2	2	1
四　国	1	1	1	1
九　州	2	4	3	2
開催地	1	1	1	1

HAND BALL CONTENTS Sep.

（登録チームの購読料は登録料に含む）

世界の空へ、笑顔を乗せて。

(財)日本ハンドボール協会編『ハンドボール』第四七三号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
平成十八年八月二十六日印刷 平成十八年九月一日発行
東京都渋谷区神南一－一－一
電話 代表 〇三－三四八一－二三六一
〇〇一二〇－七－一〇二九三
編集兼発行人 大西武三
定価 年間三三〇〇円